

ポブベックのやさしい投資信託

第45回 ファンドの買い方 その1 (10) ファンドの買い方

(10-A) 銘柄分散と時間分散

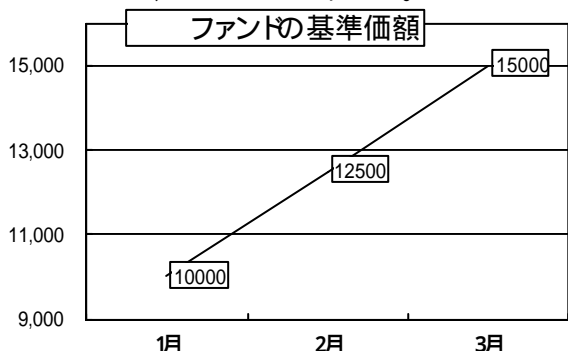
株式に投資する事を考えてみましょう。株式に投資して儲けるためには、何に注意したらよいでしょうか？答は簡単。いつ(when)、何(what)を買うか。これが上手くいけば、株式は儲ります。ただ、これが簡単には分からない。だから、株式に投資する人達は、これを予測するために、日夜調査をしたりチャートを書いたりと涙ぐましい努力をするわけです。

しかし、資産運用という観点から考えると、大儲けを狙う必要はないのです。株式の平均点を取れば良いのでしたよね。そして平均点を取るためには、分散投資、つまり株式投信への投資が良いのだと、以前解説しました。しかし株式投信で可能なのは、銘柄分散だけです。whatは分散できますがwhenを分散することは出来ないのです。ところが、株式の平均点を取るためにはwhatだけではなく、whenも分散しなければならない。つまり時間分散をしなければならないのです。

時間分散は、投信を購入するだけでは、達成できません。投信を、時間を分けて買っていくことが重要なのです。手元にあるお金全てを、一度に投信購入に当てるのではなく、毎月定期的に投信を購入する、またはボーナス時に定期的に投信を購入するなどの方法で、時間分散をすることが重要なのです。

(10-B) 等金額投資と等口数投資

では、どのように時間分散をすればよいのでしょうか。ここから先の解説は、計算式がたくさん出てきます。しかし、全て四則演算ですので怖がらずに、式の意味を理解しながら、ついてきて下さい。



1月から3月まで、基準価額がこのグラフのように推移したとします。

等口数投資

各月に1口ずつこのファンドを購入したとすると、各月の購入金額、及びその累計は下表のようになります。

	基準価額	購入口数	購入金額	累計購入金額
1月	10,000	1口	10,000	10,000円
2月	12,500	1口	12,500	22,500円
3月	15,000	1口	15,000	37,500円

全部で3口購入しましたから、その平均購入単価は、 $37,500 \text{円} \div 3 \text{口} = 12,500 \text{円}$ ですね。では、3月時点での損益はどうなっているのでしょうか。3月には基準価額が15,000円になっていますから、3口では $15,000 \times 3 \text{口} = 45,000 \text{円}$ です。37,500円を投入して45,000円になったのだから、利益は $45,000 \text{円} - 37,500 \text{円} = 7,500 \text{円}$ 、利益率は $7,500 \text{円} \div 37,500 \text{円} \times 100 = 20.0\%$ となります。

等金額投資

では、一口ずつではなく、1万円ずつ購入したら、どうなるでしょう。

	基準価額	購入口数	購入金額	累計購入金額
1月	10,000	1口	10,000	10,000円
2月	12,500	0.8口	10,000	20,000円
3月	15,000	0.67口	10,000	30,000円

購入合計口数は $1 + 0.8 + 0.67 = 2.47 \text{口}$ となります。そうすると平均購入単価は $30,000 \text{円} \div 2.47 \text{口} = 12,145 \text{円}$ ですね。(a)に比べ購入単価は安くなっています。3月の基準価額は15,000円ですから2.47口では $2.47 \text{口} \times 15,000 \text{円} = 37,050 \text{円}$ です。利益は、 $37,050 \text{円} - 30,000 \text{円} = 7,050 \text{円}$ となります。この額は(a)に比べ少ないのですが、利益率で見ると、 $7,050 \text{円} \div 30,000 \text{円} = 23.55\%$ となり、(a)よりもずっと高い利益率となります。表にして比べてみましょう。

	合計口数	購入単価	利益額	利益率
(a)等口数	3口	12,500	7,500	20.0%
(b)等金額	2.47口	12,145	7,050	23.5%

この表を見て明らかなように、等口数ずつ購入するよりも、等金額ずつ購入した方が、購入単価が安くなり、その結果として

収益率も上がるのです。

このように、等金額ずつ購入する方法を
ドル・コスト平均法と言います。投信を購
入する時には、ドルコスト平均法を使って
時間分散をするのが、より効率的な投資方
法となるのです。